

年次支部ニュース

第2号

新会則による新執行部発足



年次支部協議会全体会 (6月28日)

年次支部協議会 代表幹事就任ご挨拶

年次支部協議会代表幹事

松木 茂夫
(白門44会会長)



この度、私は、年次支部協議会の代表幹事に推薦され就任致しました。年次支部協議会発展の為、一生懸命努力をしてまいりますので、皆様方の絶大なご協力を宜しくお願い申し上げます。

前執行部の小田代表幹事はじめ幹事・役員・委員会の皆様2年間誠に有難うございました。

さて、年次支部協議会のあり方について、前小田執行部が種々議論してきた結果、2014年1月25日開催の企画委員会・年次支部協議会において、実態に合わせた会則の一部変更が承認されました。私達の新執行部

は、新会則により誕生した最初の執行部であります。

年次支部は、大先輩から新卒者支部の62支部がそれぞれに活発な活動をしています。各単支部を繋いでいるのが年次支部協議会ですが、従来は当番幹事が1年毎の順送り、一切の会運営をその当番幹事が引き受けるという方法でしたので、近年では、若い年代支部にはなかなかハードルが高く、引き受けることが難しくなっていました。

そこで、諸先輩方のご協力とご理解を得て、2年前に順送りではなく、年次を超えて当番幹事や執行部役員

を選出するような試行を開始したわけです。執行部役員は、一支部だけでなく、世代を超えた支部から幅広く推薦された人達との共同体制にし、全体責任で運営することとなりました。

前回の全体会(6月28日)では50名近い支部代表の皆さまにご参加して頂き、各世代を超えて活発に交流しています。

これからは、中堅・若手年次支部の方々にも積極的にご参加して頂き、大先輩から中堅そして若手の各年代の方々の経験やお知恵を拝借しながら、白門の絆を大切に、母校の発展と学員の親睦が図られるよう、執行部一同一丸となり努力していきます。皆さま方の温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

年次支部協議会の活動と組織について

年次支部協議会事務局長
山城博光
(昭45卒)

年次支部は、現在白門26支部から白連会2014年支部までの63支部がそれぞれの活動を繰り広げています。

年次支部協議会の目的は、「中央大学学会の年次支部の連携・親睦を図るとともに、中央大学及び学会の施策を支援・推進し、もって中央大学及び学会の発展・興隆に寄与すること」で、自発的に設立された組織です。

従来から、特に若手の年次が気軽に参加出来るようにするためには、どうしたらよいか課題でありました。

今年、年次支部協議会会則を全面改正し、各年次支部から幅広く人材を募り、年次支部活動を順調に軌道にのせ、より内容を充実させるために五つ程の改革をしました。一つ目は、年次支部が推薦する幹事を三名以内から四名以内に増員したこと、



二つ目は、役員任期を一年から二年に延長したこと、三つ目は、副代表幹事を各年代から選定し、昭和30年代、40年代、50年代、平成年代のバランスを考慮しながら3名以内から10名以内に増員したこと、四つ目は、特に代表幹事は、単なる順送りではなく、若手を含めた幹事の中から適切な人材を選出すること、五つ目は、現行の企画運営委員会を発展的に解消し、執行部役員会を新設したことです。これはスムーズに運営できるような体制に変更すると共に、学員交流委員会、IT推進委員会、学生支援委員会、大学支援委

員会とスポーツ応援委員会を設置し、年次支部協議会の活性化を図ったものです。

今年度の活動としては、現役学生〈準会員〉に対する進路選択に寄与する支援活動と学員会全体のネットワークを構築する一つとして、定期的に会報を発行し卒業生(準会員)に配布します。

全体のネットワークを構築するためには、若手支部との連携が最も重要であるので、特に昭和50年以降の支部の会員は積極的に年次支部協議会に参加して下さいようお願い致します。

年次支部協議会執行部役員表

役職	担当	氏名	卒年	役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年
代表幹事		松木 茂夫	S 44	事務局長	山城 博光	S 45	学員交流委員長	権守 隆男	S 53
副代表幹事	総括・大学支援	堀合 辰夫	S 30	事務局次長	野田 明利	S 53	学員交流副委員長	佐藤 愛子	S 48
副代表幹事	総括・大学支援	青山 和夫	S 33	事務局次長	山本 卓	H 2	IT推進委員長	小川 学	H元
副代表幹事	事務局	小竹 正倫	S 39	広報部長	佐藤 愛子	S 48	学生支援委員長	秋山 豊	H 21
副代表幹事	学生支援	佐々木幸男	S 40	広報副部長	小暮 睦美	S 58	学生支援副委員長	久保 良太	H 11
副代表幹事	学生支援	鈴木 康二	S 42	会計監事	平岩 弘邦	S 45	大学支援委員長	小田 眞一	S 48
副代表幹事	広報・事務局	佐藤 愛子	S 48	会計監査	才野 智裕	S 46	スポーツ応援委員長	高橋 丈雄	S 39
副代表幹事	学員交流・事務局	山井 俊昭	S 50	顧問	柳田 晋次	S 39			
副代表幹事	ホームカミング	掛水 省三	S 54	顧問	正野 建樹	S 43			
副代表幹事	学員交流	乗兼 浩明	S 58	顧問	室 勝弘	S 45			
副代表幹事	IT推進	小川 学	H元	顧問	増田晃次郎	S 46			
				顧問	小田 眞一	S 48			

委員会が縦糸となり 学員交流の場づくりを

学員交流委員会

権守隆男
(昭53卒)

年次支部協議会の交流委員会委員長の権守と申します。

当会は4月にリニューアルオープンしました。人事も入れ替わりました。その流れの中で交流委員会は縦糸になり、各年次支部の方々を横糸に、同年齢の学員が育ててきた文化を共有しながら、厚味のある交流会にしたいと考えております。

しかしながら、昭和世代の固定電話のコミュニケーションと、平成世代の携帯電話→スマホ、 아이폰、 ノートパソコン(タブレット)では、大きな違いがあることもまた否めません。それは社会ではビジネスシーンでも同じ事が言えます。

さて違いばかりを強調していても交流会は発展しません。とりもなおさず中大OBには各方面に活躍しておられる方が大勢おられます。またまだまだ潜在能力は他大学を圧倒するものがあります。ちなみに中大の卒業生は他大学にない絆を持ち合

せております。ある大学の事務の関係者の方は「中大はどんなスポーツの場面でも必ずOBの方が応援に来ている。うらやましい。」と喜んでくれました。

私たち交流委員会は、そのような状況を大切に分析しながら、学員の交流の場が構築できる事を検討しております。その立場で独りよがりになる事を防ぐため、皆様からご意見をいただきたく思います。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

若手学員が応援する CHUO進路相談会

学生支援委員会

秋山豊
(平21卒)

◆活動2年目を迎えた学生支援委員会

学生支援委員会は発足2年目を迎え、委員長を務めた白鳳会の間宮先輩から白連会2009の秋山へと代わりました。また、去年の企画に協力していただいた若手学員(20代後半のOBOG)から有志を募り、体制も新たに活動を更に強化しております。

学生支援委員会の子な活動としているCHUO進路相談会は、就職活動

中の中央大学在学学生に対して、多くの若手学員との接触機会を提供するものになります。以前から有志で運営しており、今年で10年目になる企画です。

◆学生の「あと1歩の踏み出し」を 後押ししたい

派遣問題やリーマンショックに始まり、日本の雇用に於ける問題は長年の課題となっております。特に学生の進路選択に於ける環境変化は大きく、今年は経団連の倫理憲章改訂に伴って就職活動のスケジュールも大きく変わることが予想されています。そのため例年は11月実施の本企画も、今年は3月実施変更に至りました。

このような変化の大きい環境下では「自身のキャリアを考える」ことが必須です。若手学員との交流を通じて将来の自分を想像することで、将来について具体的なイメージが磨かれていきます。そのイメージが具体的になればなる程、社会に対して自信を持って「あと1歩」を踏み出す勇気につながるものだと思います。

また、学生同士が交流することで、同じ悩みを共有し、共に解決策を模索することで、就職活動を勝ち抜く力を獲得できると思います。このような団結は力を生み出すだけでなく、次世代の学員の結束を生み出す礎になります。「先輩から後輩へ」このような連鎖は、中央大学の絆をより強固にし、発展させるものと思います。

就職活動中の学生は、将来への不安も多く心細いものです。先輩の皆様には在学学生へ向けて多大なるご支援・ご協力を賜れば幸甚に存じます。

新規会員の参加を歓迎します!!

各年次支部は、同期会の集まりで大学、学員会会員との繋がりで活動しています。

▶スポーツ応援「陸上・水泳・野球・ラグビー他」(箱根駅伝の応援、東都大学野球応援、オリンピック選手などの応援ほか)

各年次支部の活動…好みの活動に任意に参加ができます。

▶会員間のビジネス交流で人脈の拡大、更に先輩・後輩との繋がりを醸成

▶趣味の一致で、幅広い交流とコミュニケーションの充実

▶同期生の各職専門家との交流で、信頼感をもって問題解決への導きを図る

▶講演会、セミナーなどへの参画により自身の教養などを向上させる

《加入などの問い合わせ》学員会事務局：03-3219-6175

CHUO進路相談会について(予定)

日時 2015年3月7日(土)13時~

場所 中央大学後楽園キャンパス

文化 57ネット支部主催落語会

2014・9・28 濱 嘉之
(昭57卒)

中央大学落研(ラクケン)出身で初めて真打になった「桂やまと」さんの江戸落語を楽しむ会が開催されました。終了後の懇親会にも50名近い参加者が集い、交流も大盛況でした。

「中央大学OBの中で噺家になったのは五人しかしない」

その希少価値と愛校心を伝え、時として先輩OBをイジリながら、これを巧みに噺の「マクラ」にして、この日の参加メンバーの中で最年少の三代目桂やまと師匠の高座が始まった。「優れた演技手はマクラも個性的」とも言われるが、やまと師匠の「マクラ」も聞き手を十分に意識した質の高さがある。マクラは本題の前に聴衆をリラックスさせる重



やまと師匠のプロフィールを紹介



三代目 桂やまと師匠

要な意味を持つだけに、噺家の資質も試される。

話題を転じながら、古典落語の滑稽噺「あくび指南」に入っていく。「先輩相手にこの題材を選んだか……」噺もさることながら、この噺には静と動、しかも微妙な身体の動き等、話さずして伝える部分も大きい。

後段は人情噺「阿武松^{おおのまつ}」だ。ちょうど九月場所千秋楽ということもあって、この題材を選ばれたのかも知れない。

落語は一人何役も演じ、日本語の面白さを最大限に活かした高度な技芸を要する日本ならではの伝統芸能である。やまと師匠が到達した真打は「落ちることはない」地位であるが、極めて厳しい競争社会でもある。師匠が今後ますます精進され、人間国宝の域に達するまで、中大OBとして、トコトン声援を送り続けたい。



桂やまとの江戸落語を楽しむ会

スポーツ ラグビー部への支援

2014・2・28 激励会

毎年2月に、44会・45会・46会・48会・53会ほか、熱い中大ラグビーファンとの共同開催という形で激励会を行っています。昨年は監督以下、部の意識改革に取り組み、リーグ戦での優勝争いに加わるなど強豪復活への狼煙を上げたシーズンだったが、真価を問われる今年だけに参加選手たちの自覚も強く、固い決意の言葉を聞くことができました。

中大1万人大作戦

ラグビー部OB
勝文子 武史
(平21卒)

日頃は中央大学ラグビー部にご支援・ご声援賜りまして、誠にありがとうございます。

ラグビー部は、今年創部90周年を迎えることができました。これも、部をご支援・ご声援して下さる中大OB・ファンのみなさまのお陰です。重ねて御礼申し上げます。

白門会のみなさまをはじめファンの方々には、毎年オフシーズンに激励会を開催して頂き、叱咤激励を頂いております。応援して下さいの方々と一緒に実際にお会いし交流できることを、現役員も非常に喜んでおり、ラグ



現役選手を励ました激励会

若手学員のページ

年次支部では、若手で活躍しているOBや学生への支援を積極的に行っていますが、今回は、文化・スポーツ両面から活動を紹介します。

ビーに対するモチベーション向上にも繋がっているようです。

昨年は、中大ラグビー部の「改革元年」とし、一からラグビー部の意識改革を行った結果、リーグ戦2位と惜しくも数十年ぶりのリーグ戦優勝を逃してしまいましたが、3年ぶりの大学選手権出場を果たすことができました。

今シーズンは、選手一人ひとりが毎日の練習の質にこだわり、昨年度以上の結果を残せるよう練習に励んでおります。9月14日よりリーグ戦が開幕致しました。お時間があるときは、試合会場で観戦して頂けたら幸いです。(試合スケジュール等の詳細はラグビー部公式HP (<http://curfc.jp/>)をご覧ください。) また、この記念すべき年、11月30日に秩父宮ラグビー場にて関東大学ラグビー最終戦を昨年のリーグ戦1位流通経済大学と2位中央大学が昨年の雪辱を期して激突します。ラグビー部では、選手の最高のパフォーマンスを引き出すために、「中大1万人大作戦」を計画し、秩父宮ラグビー場を1万人のOB・ファンみなさまで中大一色に染め選手を応援するというものです。ぜひ秩父宮ラグビー場まで足をお運び頂き、ご声援を頂けたら幸いです。引き続き、中央大学ラグビー部の応援をどうぞよろしくお願い致します。

地域支部連携

平成会の取り組み

中大卒業生としての誇り

東京練馬区支部 幹事長 (第二代平成会会長)

木内 知己
(平3卒)



初めまして、東京練馬区支部幹事長を拝命しております木内と申します。と言いましてもこの度は、当支部の若手の会である「平成会」の第二代会長として少しお話をさせて頂く機会を頂戴した次第です。

読んで字の如く「平成会」とは、平成年度卒業生の集まりです。会員数は、50名前後で20名前後の方がイベント毎に参加されています。既に最年少と最年長では20数年の差があり、もはや若手とは言いがたい面々も居りますが、一応若手と言うことになっております。最近では、お隣りの中野区支部・杉並区支部にも同様の会が発足し、定期的に交流を深めています。

毎年秋には、地元の光が丘公園で平成会主催バーベキュー大会を開催しており、今年も先輩方やご家族でのご参加が合わせ60名を超える大人数で、楽しい一時を満喫致しました。中野・杉並の両会長を始め大勢の先輩諸氏から必ず質問されるのが、

どうしてこのように大勢集めることが出来たかということです。私自身特に特別なことをしたという実感はありませんが、振り返ってみますと思い当たることもございますのでお話し致します。

まずは、参加し易くするのではなく参加出来るときに参加するようにしたこと、そして参加して良かったと思って帰って頂くことを心掛けていました。どのような企画をやっても参加した人につまらないと思われたら何の意味もありません。

次に、全く参加されない方にも常に情報は提供し続けたこと。いつの間にか連絡が来なくなってしまうというのは寂しいものです。

そしてここが一番重要だと思うのですが、中大卒で良かったと思ってもらえる先輩になることです。つまり後輩から見てこの人とはお付き合いしない方が良いと思われなことです。換言すれば自らの行動により中大卒というブランドを貶めないこと

です。良く「親は子の鑑、子は親の鏡」と申しますが、私はこれからも「先輩は後輩の鑑、後輩は先輩の鏡」を心に留めて中央大学の卒業生として、恥ずかしくない人生を歩んでいきたいと思っております。



9月14日 光が丘公園にて練馬平成会バーベキュー大会開催

中央大学 卒業50周年記念式典



て在学中はあの「箱根駅伝6連覇」が達成された時期にもびったり重なっています。50年前、我々は母校を旅立ち、社会人として様々な分野で支え、担い、作り上げてきました。日本国内に限らず、世界を舞台に活躍し、日本の存在感を世界に示してきた世代の一員であり今日の日本を作り上げてきたと言えるでしょう。貴重な人生経験を積み重ねて今日を迎えていることと思います。ご指導いただいた当時の先生方、OBの方々、両親に対しても改めて感謝の意を表したいと思います。

6年後には東京で56年ぶりのオリンピックが開催されます。我が母校からの在学生やOBの選手の活躍を期待し、皆さんと共に前回（昭和39年）を越える熱い応援をしたいと思えます。宜しくお願いします。

新たな人生への出発

白門46会支部長
半澤勉



大学卒業後すでに43年が経ち、一昨年までは会社経営のマネジメント業務に没頭、途中大病も思いながらもなんとか自分の責任を無事全うして退任できたことは家族や関係の人たちの献身的な協力の賜と心から感謝しています。

退任にあたって長年ご教導いただいた某大神宮の宮司さんにご挨拶に参った時、神社業務手伝いのお誘いがあり、現役時代に伊勢の神宮における禊研修、稲荷神社の参拝旅行、

心の復興に向けて

30年会支部長
堀合辰夫



平成23年3月11日の東日本大震災にからむ、人災の後始末の依頼を受け、岩手通いをしています。

私の郷里である被災地山田町に届けられた、約7億円もの復興資金の大部分がボランティア団体に悪用されました。浪費された金は町の責任であるので、後で町が県に、県は国に、夫々、返還しなくてはならないものです。後でわかったことですが、町が信用して資金の運用を任せたボランティア団体の代表は、詐欺の前歴者でした。

災害のドサクサで人出不足の混乱の中、NPOのボランティアと自称して近寄って来た者に対するチェックが甘かったようです。火事場泥棒、香典泥棒の類です。

事件発生から3年半、取り敢えず9月3日、刑事事件では6人が起訴され、その内の2人について1年6ヶ月の懲役実刑の判決言渡があり、控訴がなく確定しました。他の4人は事実を否認したりして争っているため、判決はまだ先のことです。

民事事件は4件とも始まったばかりで、互いに主張整理の段階、結論の出るのは更になりません。賠償請求が中心ですが、経済的な資力に乏しい被告からの損害回収には厳しいものがあります。

被災地は、徐々にではありますが復興が見えて来ましたが、被災地、被災者の心の復興には、まだまだ時間がかかりそうです。

特に事件処理して思うことは、ボランティアとか、NPOという言葉に対する被災者の受け止め方です。ボランティアといえば善意・無報酬

が当たり前と思っていた被災者は、今回の事故で、すっかり興ざめしてしまっています。とても残念なことですが、ボランティアを疑いの目で見えるようになってしまいました。これから善意で奉仕しようと思っている多くの人達にとって活動がやりにくくなっているということです。

私の郷里通いが、単に法廷での事件処理だけではなく、それを通じて被災者の心のアレルギーを消すこと、心の傷を癒すことに、多少でもプラスになればと念じています。

中央大学卒業50周年祝賀会を終えて 30年代学員としての思い

白門39会前支部長
高橋丈雄

8月22日東京會館に於いて、卒業50周年記念祝賀会を開催致しました。ご出席頂きました年次支部協議会の御来賓の皆様、誠に有難う御座いました。

「中央大学及び中央大学学員会のご支援」を戴き、学長・学員会会長様のご臨席を得て「中央大学卒業50周年祝賀会」を多くの会員と共に盛大に開催出来たことは、私達の大きな喜びであり、心から感謝申し上げる次第です。

本年は我々が昭和39年に卒業して満50年の記念すべき大きな節目の年に当たります。多くの同期卒業の皆様と、50年振りに一堂に元気に再会し、懐かしき青春時代を語り合いながら母校・仲間への感謝、今後の健勝、活躍を共に祈念し、明日への希望へ向かって祝杯を挙げました。

振り返れば長い年月であります。入学した昭和35年は安保闘争の真只中でした。卒業した39年は新幹線やモノレールの開通、東京オリンピックの開幕など高度経済成長期のはじまりの時期でありました。そし

以前から靖国神社の崇敬奉賛会員になるなど普段から神社を身近に感じていたこともあり、家族とも相談し、同じ年の9月からご奉公にでかけることとしました。しかし基礎的知識や行動形態など知らないことばかり、宮司に神職養成講習受講の許可をいただき、東京都神社庁殿の推薦状をもって國學院大學研修事務課に願書提出し書類選考の上、同大学の研修生として神道研修に取り組むこととしました。研修期間中、教科書の読み込み、祭式実技の復習など資格試験対策のため半徹夜の連続となりました。受験資格限度の最高齢にある自分は後のない背水の陣の意識で臨まなければならない自主的に大学研修所に泊まり込み、ほかの研修生たちと一緒に日夜勉強を続けました。研修終了後國學院大學の筆記・

祭式試験合格発表で運よく合格、神社本庁殿から神職許可証をいただき、ようやく自分の所属神社での神職実務研修に入ることができました。本殿、境内、参道の掃除をはじめ、参拝者のご案内、祝詞学習、結婚式、七五三などの祭式実習など、高齢者だからと言って妥協は許されず、指導の神職さんからの優しくも厳しい激励をいただきながら、今年9月で早三年目を迎えました。現在、神社実務研修団体にも参加し自己啓発に努め神事を主宰する本物の神主を目指し研鑽を重ねております。人生の書「菜根譚」に「陽が暮れ落ちてでも夕映えは美しく輝き 一年の瀬が迫っても柑橘はふくいくと香る 君子もまた晩年にはいっそう精神を奮い立たせなければならない」とあるように、自分も同様に気持ちを奮い立たせ、体力、知力、気力の続く限り新しい環境の下で世の平安のため非力ながらお役に立ちたいと思っている今日この頃です。

根は強い気持ちで立ち向かい、最後まで諦めない精神で粘り強く走り抜いた者が、勝利を掴み取ることは間違いありません。そのためには、箱根駅伝のコースが20km以上あることを自覚し、その距離を自分の体でコントロール出来るくらいまで走り込み、自信を持って箱根駅伝に臨むことが重要です。

先日、中央大学出身の我々にとっては最高のニュースが飛び込んできました。それは、9月7日に行われた全日本インカレで、新庄翔太選手(法4)が5,000m(13分52秒40)で自己新記録を打ち立て、第3位(日本人選手第1位)になったことです。箱根駅伝を控えた我が母校やOBにとっては、この苦しい時期に涙が出るほど嬉しいニュースです。新庄選手本当に良く頑張りましたね。おめでとう! この結果がチームに良い刺激となって、みんながますます勢いづいて、明るい雰囲気で最高の結果が出ることを期待しています。

今、続けている苦しい練習は決して裏切りません。皆さんに走力も負けじ魂もあることは解っています。後は自信持って積極的なレースをすれば、86回の襷は必ず繋がるはず。そして、来年の箱根駅伝ではシード校に戦いを挑んで、打ち負かす中央大学の底力を見せ付けてください。お願いします。

最後に、箱根駅伝を応援して頂いている関係者の皆様、大きな声援を送ることが、何よりも選手の力になります。みんなで応援に行きましょう!

ガンバレ…中央大学!!

【編集者註】白土さんは、4年連続箱根駅伝出場、1年6区4位、2年6区3位、3年1区4位、4年4区3位の成績を収められています。

来年の箱根駅伝で勝負しよう!

白門50会
白土文海
(旧姓 椎葉)

今年もいよいよ待ちに待った駅伝シーズンです。我が中央大学駅伝予選会は、6月の全日本大学駅伝予選会の惨敗を胸に秘め、永井秀篤主将を筆頭に全員一丸となって、日々走り続けています。

ここで改めて箱根駅伝90回の足跡を振り返って見ましょう! そこには偉大なる先輩達が襷を繋ぎ続けた、中央大学がNo.1の記録が、次のように燦然と輝いています。

- 出場回数88回(第2位84回)
- 連続出場回数85回(第2位66回)
- 総合優勝回数14回(第2位13回)



力走する中大選手(昨年の予選会より)

- 連続総合優勝回数6回(第2位5回)
- 完全優勝回数9回(第2位5回)
- 往路優勝回数15回(第2位13回)
- 区間賞獲得数136個(第2位117個)
- 連続区間賞獲得年数24年(第2位20年)

選手諸君は、この偉大な記録を一人一人が全身に叩き込み、最大の努力をしてください。期待しています。私が箱根駅伝を走った経験から、箱

お知らせのページ

学生たちの活躍

今後の予定

〈スポーツ〉

- 水泳部
インカレ総合優勝(天皇杯奪回)
- 自転車競技部
インカレ4キロチーム
パシュート33年ぶり優勝
- 準硬式野球部
インカレ準硬式野球選手権大会優勝
- 剣道部 梅ヶ谷選手(法1年)
個人インカレで10年ぶり優勝
- アイスホッケー部
関東大学リーグ戦優勝
- バレー部
インカレ春季リーグ全勝優勝
秋季リーグ 健闘中
- 硬式野球部
東都大学秋季リーグ戦 健闘中

〈文化連盟〉

- 2014年9月26日 音研吹奏楽部
第54回東京都吹奏楽コンクール
銀賞受賞
- 2014年2月20日 棋道会吉本悠太

さん(商2年)第42回全日本学生
十傑戦(学生王将戦)で優勝

●ホームカミングデー (白門学員祭)

日時:2014年10月26日(日)
10時~16時
場所:中央大学多摩キャンパス
内容:3代表彰、豪華ゲスト対談、
福引大抽選会、模擬店多数、
ほか多彩なイベントあり
※年次支部でも複数支部の模擬店を
出店し、メイン会場や生協食堂で
は交流スペースを設けています。
ぜひお立ち寄りください。

●白門レガッタ レース開催

日時:2014年11月22日(土)
場所:戸田ボート場

※年次支部でも出場するチームがあ
ります。ぜひ応援にきてください。

●ラグビー応援1万人動員プロジェクト

日時:2014年11月30日(日)
場所:秩父宮ラグビー場
内容:関東大学リーグ最終戦
対流通経済大学戦

●中大音研混声合唱団 メサイア演奏会

日時:2014年12月21日(日)
時間:開場13時45分/開演14時30分
場所:杉並公会堂大ホール
入場料:指定席2500円/自由席1500円
演目:ヘンデル「メサイア」
指揮:白石 卓也
管弦楽:アレクテ室内管弦楽団
合唱:中央大学音研混声合唱団

●中大音研吹奏楽部 第57回定期演奏会

日時:2014年12月7日(日)
場所:府中の森芸術劇場どりーむホール
(詳細未定)

編集後記

▶創刊号を発行後、多くの学員会先輩・後輩の方々から賛同や励ましを戴き、心から御礼申し上げます。▶年次支部協議会は任意な組織ではありますが、昭和から平成への卒業年次支部を繋ぐ、誰でもが参加できる組織です。先輩方の多大なご尽力で連携を繋いでこられた会を、より活性化する方法を探ろうと3年前から新体制を立ち上げましたが、新体制とは言っても、大きな世代間ギャップで若手会員の協力もまだまだ難し

いものがあります。▶しかしながら今は微力であっても、大学創立以来、中央大学は堅実・誠実が特徴で、安心感・信頼感がとても大きいので、学員交流等を通しての活動努力の積み重ねが、大学貢献や中大の絆を強める効果は他大学と比較して大であると確信しています。▶地域、年次、職域、様々な団体各支部、一般学員、学生、大学関係者等々の老若男女共々に「ALL中央の精神」で一体になって協力し合い、取り組んでいくことが、中央大学を活性化させる

大きな力となります。▶この広報活動では、少しでも皆様に色々な分野から、想いや情報をお届けし、お役にたてれば幸いです。第2号発行にご協力戴きました皆さま、有難うございました。▶今回は第2号ですが、第3号は来春の新卒業生達(準会員)にも配布予定です。情報や、アドバイス、掲載したい記事等がございましたら是非ご連絡下さい。今後共、皆様のご指導ご協力を宜しく申し上げます。
(広報担当副代表/佐藤愛子・昭48卒)

《年次支部ニュース 第2号》 2014年10月20日 発行

発行者/中央大学学員会年次支部協議会
発行人/松木 茂夫
編集/年次支部協議会広報部

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学員会事務局気付
TEL 03-3219-6175
印刷所/(株)ディスカバリー